研究雑話(10)
三十六年後の実現、パリ・コンミューンと障害児教育。E・セガン以降、大事なことといくつか(一)

藤井　力夫

前回は一八四三年十一月、セガンの小児病棟改革要求が病院理事会で否決されたことをお話しました。病院の中に学校をつくれという要求で、とくにセガンとしては、「知識ではなく、用途を基礎にイデーにまで」、物の在り方、関係を生きたかたちで教えたい、十分な作業場を確保したいという気持ちがあったということをお話ししました。ビセートル精神病院でこれが実現するのは一八七九年、第三病棟(障害児棟)創設にあたりD・M・ブルネヴィルが医局長として赴任してからのことです。一八四三年から三十六年後ということになります。表は一八八二年以降骨子ができ八九年には完成していたと思われるビセートル精神病院の障害児病棟の教職員組織一覧。養護学校から職業教育まで、現代の障害児教育の原型をみることができます。セガンの時代から四十年、なにがどう違ったのでしょうか。

この間の事情を理解するには、セガンの時の二月革命、ブルネヴィルの時のパリ・コンミューン、いずれも両者が深く関わっており、両政変の違いについて理解することが近道です。

(一)　病院理事会で改革要求が否決されたセガンはストライキに近い形で、授業をしないという態度に出たものですから、一八四三年一二月二一日にビセートル院を辞職することになります。入れ替わりにサリペトリエール精神病院のL・J・F・ドラシオーブ(医師)がビセートルに赴任、後継は施設長の意向を受けたH・T・ヴァレが担当。セガン自身はオペラ座の北東約十分位のところで学校を開設。しかし、財政的には大変で、一八四八年には閉鎖、二年後アメリカに渡る。これがその後の経過ですが、なぜ学校、ないし院内作業場の設置にこだわったのでしょう。セガンの内的必然性については既述した。次の脈絡が興味深い。一八四八年の二月革命時、セガンは「共和国は労働者の生活を職によって保護し、全市民に労働を保証する」とする臨時委員会を応援。中身の一つは「国立作業所」の設置ですが、この最初の労働権要求の臨時委員会にセガン自身が賛同署名しているとのことです。私自身最近知ったことなので、さらに調べてみたいと思います。

(二)　パリ・コンミューンは一八七一年三月一八日、進入したプロセイン軍との抗戦の継続とパリの防衛、及び逃げ腰の「国防」政府を倒し共和制を擁護しようとする労働者と市民により蜂起され、自治の貫徹をめざして選挙により樹立された「最初の労働者政権」です。普通選挙による政権樹立、労働者や貧窮市民の救済、教会と国家の分離、無償義務教育の要求等、現代民主主義のすべてが含まれています。ブルネヴィルは「医療の社会化」の立場からこれに参加、L・S・ドレクリューズの当選に協力したとされています。彼、三一歳の時で、その後一八七五年からはパリの市会議員、セーヌ県会議員を引き受け、八二年にはL・ブランの後継として総選挙に出馬、当選(急進社会党)。この間、パリ市議会等でやった彼の医療改革は次の三つの柱。①救貧市民に対する産科専門病棟での出産、公的扶助の適用。②サリペトリエール病院とビセートル病院に看護学校を創設。③ビセートル精神病院の院内改革、成人障害者病棟、小児てんかん病棟、白痴病棟の三病棟に分離。そして彼自身、一八七九年この障害児(白痴)病棟の医局長として赴任するのであった。以上、ほとんど知られてない事柄です。

(北海道教育大学助教授)

障害児棟の教職員組織
(ビセートル、1889)

A. 医療部門	
①正医師	1人
②臨時医師	1
③標本管理者	1
④薬剤師	1
B. 学校部門	
a) 年長学校	
①普通教論	3
②音楽教師	1
③体育教師	1
④指導員	2
⑤学級担当少年	4
b) 年少学校	
①保母	1
②保母補佐	2
③臨時保母	1
④看護婦	1
c) 職業教育	
①靴職人	1
②家具職人	1
③椅子の張り替え職人	1
④錠職人	1
⑤裁縫職人	1
⑥籐細工職人	1
⑦ブラシ製造職人	1
C. 病棟部門	
①指導員(女)	1
②指導員補佐(男)	1
③指導員補佐(女)	1
④臨時指導員	1
⑤看護人	22
⑥看護婦	28
⑦浴室係	1
⑧理髪師	1
⑨守衛	1